

令和 5 年度
佐渡市地域自立支援協議会

専門部会作業状況報告

佐渡市地域自立支援協議会

令和5年度 知的・身体障がい部会報告

構成員	<p>岩の平園、第二岩の平園、あんずの家、まつはらの家、愛らんど相川、愛らんど畑野、愛らんど新穂、チャレンジド立野、そよかぜ、手をつなぐ育成会、身体障がい者福祉協議会、リトルマーチ、佐渡特別支援学校、新星学園、佐渡市社会福祉協議会、障害者相談員、佐渡地域振興局健康福祉環境部、中央福祉相談センター、そらうみ、こもれば、すたーと、社会福祉課</p> <p>◎愛らんど、◎はまなすの家</p>
作業内容	<p>1 8050問題について</p> <p>2 身体障がいの方の居場所等について</p> <p>3 佐渡市地域自立支援協議会の再編について(佐渡市より)</p>
詳細事項	<p>1 保護者の高齢化に伴う課題、金銭管理等、必要な支援について検討する。</p> <p>2 障がい特性の違いから作業所への通所が難しい、障がい福祉サービスから介護保険への移行等、サービスのはざまにある方の活動の場について検討する。</p> <p>3 今後継続して協議が必要な地域課題等について</p>
開催日	令和5年12月11日
議題	<p>1 8050問題について</p> <p>2 身体障がいの方の居場所等について</p> <p>3 佐渡市地域自立支援協議会の再編について(佐渡市より)</p>
内容・結果	<p>1 8050問題についてグループワークを行い、現状の課題と必要な支援について検討、共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が認知症を発症してしまうと支援への拒否が強く、対応困難になる。早期に相談しやすい相談員につながり、SOSを早めに出せるように関係性を構築しておく必要がある。 ・緊急時の受け皿となる福祉施設も本人の情報が無い状況での受け入れは困惑もあり、事前に利用希望者の状況が把握できる体制ができると良い。
内容・結果	<p>2 身体障がいの方の居場所等についてグループワークを行い、現状の課題と必要な支援について検討、共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度心身障がい者の居場所がない。 ・通所したくても交通手段がない。 ・50代で在宅の方もおり、就労や活動の場が必要。 ・特性に合わせた地域活動が必要。 ・在宅ワークの利用。 <p>3 今後継続して協議が必要な地域課題等についてグループワークを行い、共有する。</p>
今後の取組	<p>1 8050問題について</p> <p>2 強度行動障害がある方への支援について</p> <p>3 身体障がいの方の居場所等について</p>

令和5年度 就労支援部会報告

構成員	<p>佐渡公共職業安定所、佐渡地域振興局健康福祉環境部、身体障がい者福祉協議会、手をつなぐ育成会、佐渡よつば会、新潟県新星学園、さわやか、相川岩百合、サウスクラブ、愛らんど相川、愛らんど畑野、愛らんど新穂、チャレンジド立野、あんずの家、まっはらの家、真野みずほ病院、佐渡総合病院、佐渡市社会福祉協議会、はまなすの家、さど、こもれび、そらうみ、愛らんど、すたーと、特別支援学校、特支学校 PTA、中央福祉相談センター、社会福祉課</p> <p>◎障がい者就業・生活支援センターあてび</p>
作業内容	1 障がい者雇用の拡大について
詳細事項	<p>1 企業に対する取り組み</p> <p>1 ・障がい者雇用促進セミナーの実施。</p> <p>2 就労支援事業所からの一般就労を進める取り組み</p> <p>・支援者向けセミナーの実施。</p> <p>3 関係機関との連携について</p> <p>・次年度に向け構成員からの意見を集める。</p>
開催日	令和5年9月26日(第1回)
議 題	<p>1.障がい者雇用セミナーの実施。</p> <p>2.支援者向けセミナーの実施。</p>
内容・結果	<p>1,2ともに(株)NSGソーシャルサポートと共催で実施。</p> <p>1.オンラインで実施。「経験者が語る、障害者雇用のリアル！地域の障害者雇用のあり方について」と題しパーソルダイバーズ(株)の洪様の講演と佐渡市内で障害者雇用を実践している2事業所から登壇いただき各事業所の取り組みについて講演いただく。佐渡市内の企業、支援機関から11回線の視聴があり、圏域外の企業からも視聴が複数あった。視聴いただいた企業担当者からは参考になったという意見が多数あった。</p> <p>2.「就労を目指すために、支援者(私たち)ができること！」と題し、パーソルダイバーズ(株)の洪様の講義を受講。集合とオンラインで実施し、集合13名、オンライン9名の参加があった。就労を希望する障がい者を企業が戦力とするには、そのために支援者はどうすれば良いのかを知るきっかけになったのではないかと考える。</p>
開催日	令和6年1月26日(第2回)
議 題	令和5年度(R5.4月～12月)時点の実施状況及び取り組みの報告。来年度に引き継ぐ課題や意見についてのグループワーク。
内容・結果	<p>・今年度、昨年度同時期の実施状況(相談件数、職場実習のあっせん状況、一般事業所への就職状況など)、取り組み(各種セミナーの実施、ハローワークとの連携、ピアサポート、在職者交流会、他機関との連携など)の報告。</p> <p>・来年度に引き継ぐ課題や意見について5つのグループに分かれて自由に意見交換を行う。企業への障害特性や仕事の切り出しについての周知や、求職者向けのセミナーの実施、企業・作業所の交流などの意見が出た。</p>
今後の取組	<p>・企業の障害者雇用及び障がいについての理解促進、企業がどのような人材を必ようとしているのか、適性に合わせた仕事の切り出し。</p> <p>・求職者向けのセミナーや体験的な職場実習の場や機会の提供など就労に向けての体制づくり。</p> <p>・就労系の事業所、相談支援支援事業所との連絡会議等による就労を希望する障がい者の掘り起こし。</p>

令和5年度 精神障がい部会報告

構成員	<p>佐渡よつば会、佐渡総合病院、こもれび、はまなすの家、そらうみ、愛らんど、すたーとさわやか、相川岩百合、サウスクラブ、障がい者就業・生活支援センターあてび、佐渡市社会福祉協議会、佐渡地域振興局健康福祉環境部、市民生活課健康推進室、両津支所福祉保健係、相川支所福祉保健係、羽茂支所福祉保健係、社会福祉課</p> <p>◎相談支援事業所さど</p>
開催日	令和5年7月10日(第1回)
議 題	<p>1 関連事業の実施状況について</p> <p>2 「佐渡市精神保健福祉対策の目指すところ」「令和3～5年度末までの行動計画」の振り返り→残っている課題、新たな課題を抽出(グループワーク)</p>
内容・結果	<p>1</p> <p>令和4年度の取り組み、今後の実施状況について報告。</p> <p>①ヘルパー研修について R4年度にヘルパー従事者とヘルパー利用者にアンケート実施。今年度 2回開催予定。第1回目は、ボランティアフォローアップ講座と共に実施。第2回目は、ヘルパー従事者向けとなる予定。</p> <p>②権利擁護「金銭管理フローチャート」作成について 権利擁護部会にてシートを作成。利用する方が少なく、今後周知していきたい。</p> <p>③居場所事業「やすんでみんなかつちゃ」試行的開始について 令和4年度月1回で開催。利用者からのアンケートにて、開催日を増やしてほしいと希望あり、令和5年度より月2回で開催している</p> <p>④福祉教育の充実について 高校にて福祉教育の普及啓発を検討。社会福祉協議会が実施している出前講座も利用できるか検討している。</p> <p>⑤地域への普及啓発 「障がい福祉のご案内」に「精神障がいの理解のために」のリーフレットを作成。</p> <p>⑥精神保健福祉ボランティア講座 令和4年度は、全3回の講座を実施。令和5年度は、フォローアップ講座として、10月に2回開催予定。</p> <p>⑦ピアサポートについて とき福祉会にて「精神障害者ピアサポート事業」を受託。ピアミーティングを3回実施。2月には、相川章子先生を迎え、研修会を実施。令和5年度は4回開催予定。先進地視察を行う予定</p> <p>2 「佐渡市精神保健福祉対策の目指すところ」「令和3～5年度末までの行動計画」の振り返り、改善した点、残っている課題、新たな課題について協議をする。結果については、別紙参照。</p>

開催日	令和5年11月22日(第2回)
議 題	<p>1 関連事業の実施状況の報告</p> <p>2 「みんなで支える地域医療推進事業」を活用した啓発事業について</p> <p>3 令和8年度までの目指すべき姿、取り組みの方向性について(グループワーク)</p> <p>4 自立支援協議会専門部会再編について</p>
内容・結果	<p>1 今年度の取り組みについて担当者より報告。</p> <p>①ボランティアフォローアップ講座について 第1回目10月4日、第2回目10月31日を開催。地域の理解者を増やすことが目的で開催したが、前年度の講座では、精神障害者の対応は難しいという意見が参加者からあった。今回は、障害をもっている方も地域生活を送っている一員としてとらえてもらう事を目標とした。アンケート結果では、85%の方が「意識の変化があった」と回答。</p> <p>②ヘルパー研修について 10月4日にボランティアフォローアップ講座と共に、第1回目を実施。4事業所7名が参加。内容としては、佐渡総合病院深石医師より精神疾患の知識について講義いただく。講義後、グループワークを行い、日頃のかかわりなどについて意見の共有を行う。 第2回目の研修では、佐渡総合病院梅川心理士より、「精神疾患を持っている方への向き合い方について」を講義いただく予定。</p> <p>2 保健所より説明がある。佐渡市は症状が重くなってから受診する傾向がみられる。心身に不調を抱える本人と家族を対象として、早期受診につなげる目的で、リーフレット作成予定。リーフレットへの要望や意見を聞かせてもらいたい。(グループワーク結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科受診は敷居の高さがある。精神科の雰囲気や主治医の写真があるといい。 ・イラスト等を取り入れ、ポップな印象になるとよい。 ・誰でも確認できるチェックリストを作成。 ・症状別の相談先も、分かりやすく表記されるといい。 ・学校、ドラッグストア、企業に配布 等 <p>3 「令和5年度第1回グループワークまとめ」と参考に課題を選び、優先的に取り組みたい課題を決める。課題解決に向け、課題の整理をし、令和8年度までの目指すべき姿について、グループワークにて検討。結果については、別紙参照</p>
今後の取組	別紙のとおり

令和5年度第1回 グループワークまとめ

*グループワーク結果 「佐渡市自立支援協議会精神障がい部会」にて3年を振り返り、改善した所と残っている課題・新たな課題について(R5.7.10)

目指すべきゴール
一人ひとりが自分らしい人生を歩む
～しあわせプランの実現～

<目標>

- ① **自分で選び、自分で決める。**
- ② **困ったときに「助けて」と言える「人」がいる、「場」がある。**
- ③ **地域とのつながりを持ち、自分の役割を持てる。**
- ④ **人との関係の中で生活の楽しみを持てる。**
- ⑤ **みんなで支えあい、認め合える。**

【相談支援】

○改善点

- ・関係機関の訪問回数や相談窓口が増えた。
- ・関係機関で連携がとれている。(総合福祉相談支援センターとの連携。相談内容『就労や生活、障がい・高齢』を問わず相談でき、連携して関わる事ができた。)

○課題

- ・サービスの意向はないが、基本相談のみ希望する人や、障がいサービスを利用希望者が多い一方で、人材は増えていない。対応が困難な時がある。人材育成が課題。
- ・相談の流れのマニュアル化を望む。相談窓口の明確化(関係者、当事者も)

【生活支援】

○改善点

- ・当事者の変化はないが、平穏で無事に過ごせている。
- ・ヘルパー増員から、利用にもつながられている。
- ・支援の場が増えている。

○課題

- ・本人の親が高齢になっている事から、ケアが困難。親が元気なうちは支援できるため、当事者が、外に出る事が少ない。
- ・サービス利用における保証人の有無において、利用が困難となるケースが多い。
- ・手続き関係の面で、市役所へ問い合わせの電話が多い。
- ・支援の場は増えているが、当事者はすべての対応が出来る(総合アシスト的な)相談員がいると良いと感じている。

金銭管理について

- ・金銭管理シートで取り扱っているケースについて
- ・当事者の金銭の感覚のズレ。(好きな物の購入に使用する。)
- ・入院中のお金の把握が出来ない。

当事者で話せると良い

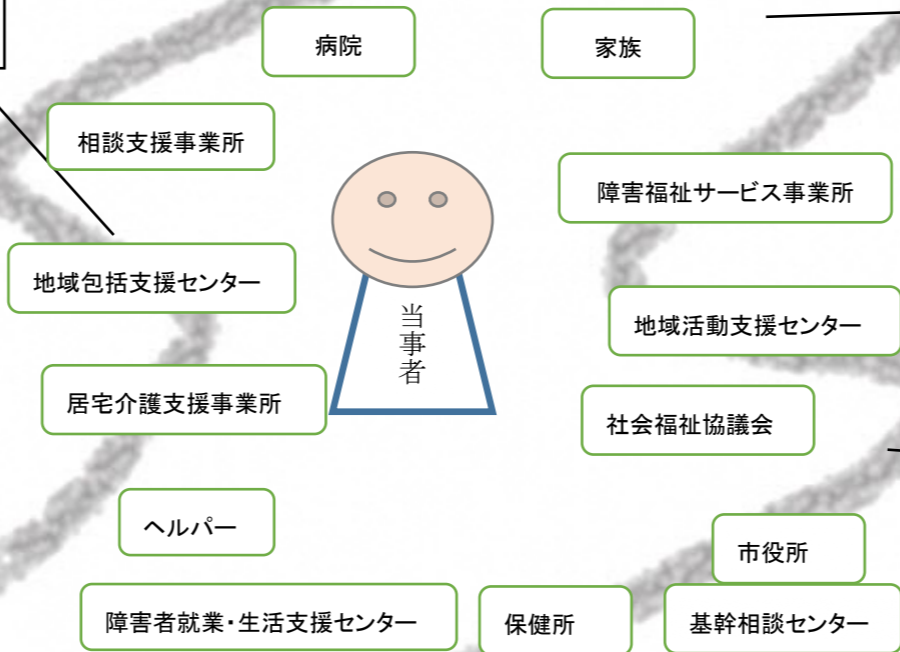
【医療】

○改善点

- 佐渡病院に統合について
- ・サポート体制が整った。・地域との話し合いの場ができ、情報が取得出来るようになった。・薬が良くなって安定した。・心身両面で見てもらえるようになった。・病院でのメンタルヘルスへの関心が増えた。・病床数が減っている中で、地域の社会資源(グループホーム)の利用者が増えた。

○課題

- ・入院前に、いかに早期介入できるかが課題。(かかりつけ医の存在が大切)
- ・病院全体で、メンタルヘルス・精神疾患の知識向上
- ・診療や薬処方まで時間がかかる。移動時間もかかる。



【入院中の精神障害者の地域移行に関わる事業】

【保健・予防】

○課題

- ・障がい者への社会的排除の傾向あり、早期発見に繋げる事が困難。

【ピアサポート】

○改善点

- ・県の事業委託として、活動継続が出来ている。
- ・月1回の家族会が、家族のストレスのはけ口になっている。

【体制整備(市町村ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場)】

- 「佐渡市自立支援協議会精神障がい部会」において、施策全体の方向性や関係機関の役割を明確にする。

【住まい】

○改善点

- ・保証人なしでも入居できる住まいがある。
- ・グループホームが増えた。

○課題

- ・交通機関の便が少ない地域の社会参加・受診について
- ・グループホームには条件があり、日中活動が必要(島外には、日中もグループホームで過ごせるところがある)
- ・65歳を超えていても介護保険に該当しない。サポートは必要。
- ・作業所はハードルが高い。集団生活や朝が苦手など個々に対応してほしい。
- ・退院できそうな男性患者が多いが、男性のグループホームが少ない。充実。

【社会参加・就労】

○改善点

- ・やすんでみんかっちゃんについて
- ・回数が増えて、外出する機会が増えた。・アットホームのような雰囲気、息抜きが出来る場所。・人や行政とのつながりが出来た。
- ・広報について、支援者間での連携を通じて参加に繋がっている。

○課題

- ・作業所について
- ・作業所など社会参加に結び付ける場所について、本人が通いたいと思うように体験活動の推進。・作業所の工賃が一定であるため、不平等な面もある。・作業所に来て、作業意欲が薄く、来る意味が見出せない人もいるため、居場所や環境整備が必要。
- ・やすんでみんかっちゃんについて
- ・地域差は解消されない。交通の便がない。

【地域の助け合い・教育(普及啓発)】

○改善点

- ・障がいについて知りたいと興味を持ってくれる方が増えた。
- ・高齢分野と障がいの理解について新任者研修など研修の開催。
- ・学びたいボランティアが多い。

○課題

- ・ボランティアについて→活躍する所までは、繋がっていない。高齢化
- ・療育への対応
- ・周知方法について →スーパーや薬局など、普段から利用する店舗に、リーフレットを置き、相談先の周知を行う。

教育分野の普及活動について

- ・PTA や生徒に働きかける。・先生方を含め、障がいについて知らない人がいる。・メンタル不調など教育について、セルフケアを念頭に置き、自分も対象として教えていけると良い。

○改善点 色々な人の意見が聞く事ができ、課題を少しずつ解決できる。

項目	取り組みの方向性	令和3年度	令和4年度	令和5年度	評価（令和5年度末）	来年度以降方向性
相談支援	①相談機関の周知	①PRちらしの検討	①PRちらしの作成・配布	①PRちらしの評価・見直し	高年齢+障害の研修会の要望あり。 R5年度ホワイトボードミーティング、災害実施。 例)本人が介護保険について知りたい。包括に依頼をしたが、まずは情報共有と言われ数か月経過。どうやって繋いだらよかったか。 ⇒ 知りたい、聞きたい内容をより具体的に R5年度2回実施	具体的に学びたい内容の研修を行う。 協議会全体として、必要な人が学べるように、研修ワーキングを立ち上げる。 (年間計画を立てて実施) ○新任者研修（年2回） ⇒ヘルパー研修の梅川心理士講義を新任者研修の中にも含める方向。 ○高齢+障害研修 ○精神保健福祉ボランティア講座 ・R6養成講座、R7フォローアップ ・養成講座申し込み〆切：9月予定 ・養成講座実施：10～12月予定
	②高齢分野と障害分野の連携推進	②研修会の開催 ・地域振興局主催の研修会	②相談支援体制の検討 ②研修会の開催	②相談支援体制の検討 ②研修会の開催		
生活支援	①ヘルパーの資質向上	①現状把握 ・当事者、ヘルパーの声を聞く (アンケート) ・ヘルパー事務局に現状を確認 ・研修会の企画	①ヘルパー向け研修会の開催		①10月4日 深石医師講義、GW 同じような困り感を持っている、障害の方に対する見方を変え、当事者のサポートをしたい。 ②2月13日 梅川心理士講義、GW アンケート結果:100%役に立つとの評価。 具体的な研修がよかった。 シート作成するも、活用できない人も多く、難しかった。継続できる人は、そのまま利用してもらう。⇒ 一旦終了	
	②金銭管理シート（仮）の作成	②権利擁護部会にて検討	②権利擁護部会にて検討 ・シートの作成、配布	②権利擁護部会にて検討 ・シートの活用促進		
住まい	①グループホームの利便性向上	①現状把握、日中活動の課題を共有。今後、個々のケースに応じて相談していく。			個別ケースの中で、保証人問題が多数挙げられている。現状では、個々の支援者が不動産屋と掛合っている。また本人の他界後の対応が問題。 ⇒ 不動産屋と話しをする機会が必要	まもる部会に引き継ぐ。
社会参加・就労	①当事者の居場所づくり	①居場所の企画、試行的な実施、評価	①居場所の実施 ・ボランティアの活用	①地域活動支援センターへの移行を検討	『やすんでみんかっちゃん』を月に2回実施。精神ボラ受講者の活躍の場になっている。 ⇒ ゆるやかな条件の方が利用しやすいため、地活への移行の方向性は一旦中止	地域デイケアがR5年度で中止、雪割草も参加者が少ないため、R6年度内にやすんでみんかっちゃんに吸収合併予定。R6年度は巡回型を取り入れ、地域からもより参加しやすい取り組みとする。
地域の助け合い・教育 (普及啓発)	①ボランティアの育成	①ボランティア育成講座の企画	①ボランティア育成講座の開催 ・居場所での活用		2年Iグループで実施。 ①R4年度ボランティア養成講座実施（24名） ②R5年度フォローアップ講座実施（13名） 86%が意識の変化があったと回答している。 ボランティアセンター登録、やすんでみんかっちゃん、フォーラム、地域デイケア、作業所行事 ⇒ 今後も引き続き実施	上記記載
	②地域への普及啓発		②精神疾患に関するリーフレットを作成（購入）・配布		R4年度作成。窓口や関係機関に配布した。今後も継続して活用していく。 ⇒ 一旦終了	
	③教育分野への普及啓発		③教育分野との打ち合わせ		社協の出前講座担当者に相談をした。 ⇒ 今後も引き続き協議を行う	社協の出前講座担当者と当センターでまずは協議を継続する。
残された課題		医療・保健		<ul style="list-style-type: none"> 入院前にいかに早期介入できるか。 セルフケアする力を身につけていく。 生きづらさを抱えた人たちが二次障害を受けないようにできるといい。 		

令和5年度 権利擁護部会報告

構成員	県弁護士会、岩の平園、第二岩の平園、はまなすの家、こもれび、さど、愛らんど、そらうみ、すたーと、佐渡市社会福祉協議会、佐渡市社会福祉協議会成年後見センター、佐渡地域振興局健康福祉環境部、高齢福祉課、子ども若者相談センター、身体障がい者福祉協議会、手をつなぐ育成会、佐渡よつば会 ◎社会福祉課 総合福祉相談支援センター
開催日	令和5年11月29日
議 題	1 金銭管理シートの活用について 2 障害者差別解消法の改正について共有
内容・結果	1 昨年度権利擁護部会で作成した金銭管理シートの目的と今後活用の方どうやって広げていくかを検討。ただ金銭管理を行うのではなく、障害者本人の意思決定の元、金銭管理が行えるようにし、支援者や当事者とその家族に向けた周知を検討。 2 令和6年4月から施行される障害者差別解消法の改正内容について共有。これまで行政機関等だけが義務化されていた合理的配慮が一般事業者も義務化等の内容を確認した。
今後の取組	1 障がい者の金銭管理等の支援 2 障がい者差別に関する相談対応方法についての検討

令和5年度 ひきこもり支援部会報告

構成員	NPO法人エコひびき佐渡、アフタースクール、KHJにいがた「秋桜の会」佐渡支部、はばたき、佐渡地区高等学校長会、佐渡地域振興局健康福祉環境部、佐渡市社会福祉協議会、佐渡市教育委員会、市民生活課健康推進室、両津支所福祉保健係、相川支所福祉保健係、羽茂支所福祉保健係、子ども若者相談センター ◎社会福祉課 総合福祉相談支援センター
作業内容	①関係機関の連携づくり ②支援者のスキルアップ ③普及啓発 のテーマで3グループに分かれて対策を検討する。
開催日	令和5年5月30日(第1回)
議 題	今年度の取組計画について
内容・結果	<p>連携づくり</p> <p>1 気軽に集まれるオンラインミーティングについて検討。ひきこもりケースについて相談しやすい場をつくり、そこから連携につなげられる体制としていくため、一度オンライン会議を試行予定。</p> <p>支援者のスキルアップ</p> <p>2 年2回ほどの事例検討会を企画できるようにしたい。それにあたって、カリキュラムを作成し、身に付けたいスキルや目標について検討していく。</p> <p>普及啓発</p> <p>3 当事者や家族に向けたリーフレットの作成について検討。相談窓口や相談したらどうなるかがわかりにくく相談に繋がりにくいのが課題。わかりやすい内容とするため、今後対象者等検討していく。</p>
今後の取組	グループごとに検討を進めていく。
開催日	令和5年9月7日(第2回)
議 題	具体的な課題や取組の検討
内容・結果	<p>1 連携づくり(別日実施) 気軽に集まれる場も必要だが、どのように情報共有をしていくかの視点も必要ではないかと提案があり、地区ごとに心配な子(人)や家庭の情報を共有できるような仕組みづくりについて検討。</p> <p>2 支援者のスキルアップ 支援者に必要なスキルとそのスキル向上にあたっての目標を検討し、カリキュラム案を作成。若者のひきこもりケースでの事例演習を提案した。</p> <p>3 普及啓発 ひきこもり支援に関する情報発信リーフレットの内容について検討した。対象は若年～中年、メッセージは「ひとりじゃないよ」ということから伝える内容が程よい。</p>
今後の取組	連携づくり、支援者のスキルアップ、普及啓発について、取組内容が具体化してきたため、それぞれ実現できるように検討し作業をしていく。

令和5年度 療育支援部会報告

構成員	<p>佐渡総合病院小児科医師、リトルマーチ、中央児童相談所、佐渡地域振興局健康福祉環境部、佐渡特別支援学校、教育委員会、小学校長会、中学校長会・佐渡ことば・こころの教室、放課後等デイサービス愛らんどえがお、愛らんど、そらうみ、すたーと、杉っこクラブ、市民生活課健康推進室、社会福祉課、子ども若者相談センター</p> <p>◎新潟県新星学園</p>
開催日	令和5年8月21日
議 題	<p>1 佐渡市自立支援協議会専門部会再編について(佐渡市社会福祉課より)</p> <p>2 構成員リストを見直しについて</p> <p>3 本部会へのご意見・ご要望</p>
内容・結果	<p>1 ①佐渡市の地域課題に照らし部会設置できるように再編したい。</p> <p>②自立支援協議本会で、部会再編の提案を行い、部会が出された課題を伝えた上で各構成員から意見を頂きたい。</p> <p>2 ①各構成の意見を聴きながら、佐渡市が見直しを進めていくこととする。</p> <p>②児童福祉法等の一部改正に伴う国の方針等にも留意する必要がある。児童発達支援センターの役割・機能の強化が求められており、「障がい児通所支援に関する検討会報告書によれば、「市町村は(自立支援)協議会こども部会を設置し、児童発達支援センターも参画して、地域の課題を把握・分析しながら、地域の支援の質の向上に取り組むことが重要」とされている。</p> <p>3 ①家庭に療育の機能を持たせるのは難しい状況であり、放デイや児童発達支援センター(が今後設置されれば)の支援に大いに期待している。ただし、そこに従事する職員にはそれなりの資質が求められるので、応用行動分析(ABA)等をOJTの中でしっかりと学んで頂きたい。</p> <p>②放デイや学童などは、経済的な面や保護者の就労状況などにより、利用が難しい方がいる。(学校長期休暇中の)昼食を持たせるのが大変な方もいるので、施設で給食の提供できるようになると良い。</p> <p>◎放デイにじいろで夏休みから試行的に毎週火曜、希望者に給食を提供しており好評いただいている。</p> <p>③じゃんぷは職員を保育園に派遣させる「おでかけさくらんぼ」という組みを立ち上げた。30人(全利用者50人中)が利用している。</p> <p>④新星学園の課題は、建物の老朽化により、改築整備が急務であり、新たな施設の在り方(機能)をどうするか検討する必要がある。福祉型障がい児入所施設としての本来の役割を重視する中で、成人の日中一時支援について施設利用の仕方佐渡市、自立支援協議会構成機関等で検討を願いたい。</p>
今後の取組	<p>1 部会(構成員)の再編について、国の方針等に留意しつつ、各構成機関に課題を聴きながら協議を進めていく。</p> <p>2 佐渡市において、児童発達支援センターを新設し、佐渡島内の関係機関が連携し、療育の段階から一人も取りこぼさない取組を進めて行く必要があること。</p>

令和5年度 相談支援部会報告

構成員	障がい者就業・生活支援センターあてび、愛らんど、新潟県新星学園、佐渡地域振興局健康福祉環境部、相談支援事業所さど、はまなすの家、すたーと、社会福祉課 ◎こもれび、◎そらうみ
開催日	令和5年5月29日(第1回)
議題	1 昨年度の振り返り 2 今年度の目標設定(個人・全体) 3 階層毎GWでの質問への回答
内容・結果	1 相談業務の経験年数ごとに分かれGWを行う。初任、現任、主任の階層毎に昨年度の振り返りを行い、今年度の目標を設定した。全体目標については昨年の目標を継続し「スモールステップ～昨日の自分より今日の自分～」。 2 3 初任、現任から出た質問にベテランから回答・助言を行う。
今後の取組	階層毎の目指す姿に向け、個々の課題にむけて取り組んでいく。 1 毎月行われる勉強会の中で、様々なことにチャレンジしていくとともに、普段の業務では聞き辛いことも相談していく。
開催日	令和5年5月24・25日、令和5年9月20・21日(中止)
議題	令和5年度 相談支援・障害福祉サービス事業所新任者研修
内容・結果	昨年度と同様に2日間の日程で開催。第1回は38名の参加で開催したが、第2回は参加者が少なかったことと、コロナ感染症が拡がりつつあったこともあり中止とした。
今後の取組	1 次年度も年2回開催で予定。制度改正など講義の内容をアップデートしていくとともに、伝え方についても工夫していく。
開催日	令和5年7月27日(第2回)
議題	1 佐渡市地域自立支援協議会の再編について 2 佐渡障がい福祉フォーラムについて 3 相談支援・障害福祉サービス事業所新任者研修について
内容・結果	1 佐渡市基幹相談支援センターからの体制図案を元に検討。他市の体制等も参考にしながらグループワークで意見を出し合う。 2 開催方法と日時を検討。相談支援部会の構成員を中心に実行委員として進めていく。 3 第1回の振り返り。第2回の開催について確認を行う。
今後の取組	1 今後も必要に応じて相談支援部会内で検討を行う。 2 12月の開催に向けて情報共有しながら進めていく。 3 第2回の開催に向けて各講師と内容の確認等を行っていく。

開催日	令和5年11月1日(第3回)
議 題	1 佐渡障がい福祉フォーラムについて 2 佐渡市地域自立支援協議会の再編について
内容・結果	1 12月の開催に向けての進捗状況の確認。 2 7月の部会での検討事項を元に部会数や内容について検討。
今後の取組	1 12月の開催に向けて進めていく。 2 検討事項を元に基幹センターを中心に総合企画部会で協議していく、必要に応じて相談支援部会でも検討していく。
開催日	令和5年12月16日
議 題	佐渡障がい福祉フォーラム2023
内容・結果	講演内容 1 「生活を支えるサービスのはなし」 2 「障害のある人の性・結婚・子育て」 2 「わたしたちの未来」～自分らしく暮らすために～
今後の取組	今回は午後からあったかフォーラムを開催したため半日で開催。ハイブリット形式 1 で開催し、112名の方が参加。県内外から講師を招き貴重な話を聞くことが出来た。今後も市内の支援者たちと共に学べる機会として開催していきたい。
開催日	令和5年2月27日(第4回)
議 題	1 佐渡市地域自立支援協議会の再編について 2 佐渡障がい福祉フォーラムについて 3 相談支援・障害福祉サービス事業所新任者研修について
内容・結果	1 基幹センターからの部会再編案を元に、課題の吸い上げ方や相談支援連絡会の開催について検討した。 2 12月に開催したフォーラムの振り返り、今後のフォーラムについて検討。次回開催は令和6年7月に開催することとなった。 3 令和6年度の開催について検討。5月と9月に開催することとなった。
今後の取組	1 基幹センター内で精査し総合企画部会で検討していく。 2 7月の開催に向けて進めていく。講演内容については実行委員内でアンケートを取り講師選定の参考としていく。 3 今年度は第1回と2回で参加人数に差があったため、定員を設ける等の対応をしていく。内容も法改正なども踏まえて精査していく。